

19年七試確定志願者数は 55万3,352人で、4年ぶりに微増へ！

現役は2年連続、女子は4年ぶりに増加。現役志願率は過去最高の37.7%

旺文社 教育情報センター 18年12月

大学入試センターはこの程、19年1月20・21日に実施される19年センター試験の確定志願者数を発表した。志願者数は55万3,352人で、18年より1,970人(0.4%)増え、4年ぶりの増加となった。現役は2年連続、女子は4年ぶりにそれぞれ増加したが、浪人と男子は4年連続の減少。都道府県別では、徳島・石川・広島など約6割で増加したのに対し、東京・千葉の首都圏を含む19都県で減少した。現役志願率37.7%は、過去最高を更新。

なお、リスニングテストにおけるイヤホン不適合者は、1,844人(全志願者数の0.3%)だった。

●志願者数 553,352人(551,382人；1,970人増、0.4%増)

<内 訳>

○高校等卒業見込者 434,316人(426,025人；8,291人増、1.9%増)

○高校等卒業者 112,728人(119,246人；6,518人減、5.5%減)

○高認・その他 6,308人(6,111人；197人増、3.2%増)

○現役志願率 37.7%(36.3%；1.4ポイント増)

○志願倍率 3.2倍(3.2倍；±0)

○男女別

① 男子 322,166人<58.2%>(323,555人<58.7%>)

② 女子 231,186人<41.8%>(227,827人<41.3%>)

○都道府県別(出身高校等別による)

① 志願者数の増加率の高い主な府県

徳島(5.2%増)／石川(4.4%増)／広島(3.5%増)／山形(3.4%増)／新潟(3.2%増)／富山(2.9%増)／群馬(同)／滋賀(2.5%増)／兵庫(2.1%増)／長野(2.0%増)／京都(同)、等

② 志願者数の減少率の高い主な県

島根(5.6%減)／宮崎(5.5%減)／山口(4.6%減)／香川(4.5%減)／鹿児島(3.7%減)／和歌山(3.1%減)／岡山(3.0%減)／山梨(2.9%減)／愛媛(2.3%減)、等

③ 現役志願率の高い主な都県

富山(50.3%)／広島(47.4%)／愛知(47.3%)／石川(44.6%)／東京(44.0%)／福井(43.7%)／山梨(同)／島根(42.9%)／群馬(41.4%)、等

○成績開示希望別

① 開示希望者 391,567人<70.8%>／② 開示を希望しない者 161,785人<29.2%>

注1. 都道府県別を除く()内は、18年データ及び18年対比の増減、等。

注2. < >内は構成比率。

注3. 志願倍率はセンター試験利用大学(短大含む)の入学定員に対する倍率。

注4. 「高認」は高等学校卒業程度認定試験の略。

<特記>

- ① 志願者数：18歳人口・高卒者数減の中、志願者数は前年比0.4%増の55万3,352人で、3年連続減に歯止めがかかった。

現役及び女子の増加が、全体を押し上げた形となった(図1参照)。

- ② 高校等卒業見込者(現役)の志願者数：18年より8,291人(1.9%)の増加。これは、現役の大学進学率アップが見込まれている中で、私立大のセンター試験参加増(11大学53学部増の451大学1,232学部)や短大の参加増(17短大増の150短大)により(図3参照)、少数科目の私立大及び短大のセンター試験利用入試を受験する現役志願者層の拡大などが原因とみられる。

また、現役と女子(4年ぶりに1.5%増)が増えたことは、専門学校から大学への進学転換が一層進んでいることがうかがえ、この傾向はしばらく続くものとみられる。

- ③ 高校等卒業生(浪人)の志願者数：浪人は6,518人(5.5%)減で、18年の2万2,298人(15.8%)減に比べ、小幅な減少に留まったが、4年連続の減少である。18年の大幅減は、新課程入試を敬遠し、浪人を回避した結果といえる。今後は1桁台の減少率で推移するとみられる(図2参照)。

- ④ 高校の学科別でみた出願状況

志願者のほとんどを占める普通科(志願者の構成比率93.0%)と理数科(同2.0%)といった進学率の高い学科で志願者減となっているのに対し、工業・商業・農業科及び総合学科などで増加している。18年は新課程入試初年度となったことから、普通科卒業の浪人が大幅に減り、その結果、普通科の減少は1万9,569人(3.7%)と大量であった。19年は279人(0.1%)減と、微減に留まっている。

いずれにしろ、高校の多様化が一段と進み、センター試験志願者層の裾野が拡大していることをうかがわせる。

- ⑤ 都道府県別でみた主な出願状況

* 志願者数：東京が6万845人で突出しており、これに愛知(3万5,149人)、神奈川(3万1,896人)、大阪(2万9,826人)、埼玉(2万8,061人)、兵庫(2万4,925人)、千葉(2万3,799人)と、18年と同じ顔ぶれが続く。

志願者数の増加は全国47都道府県のうち、徳島(前年比5.2%増)、石川(同4.4%増)、広島(同3.5%増)、山形(同3.4%増)、新潟(同3.2%増)等、28道府県、59.6%に及ぶ。

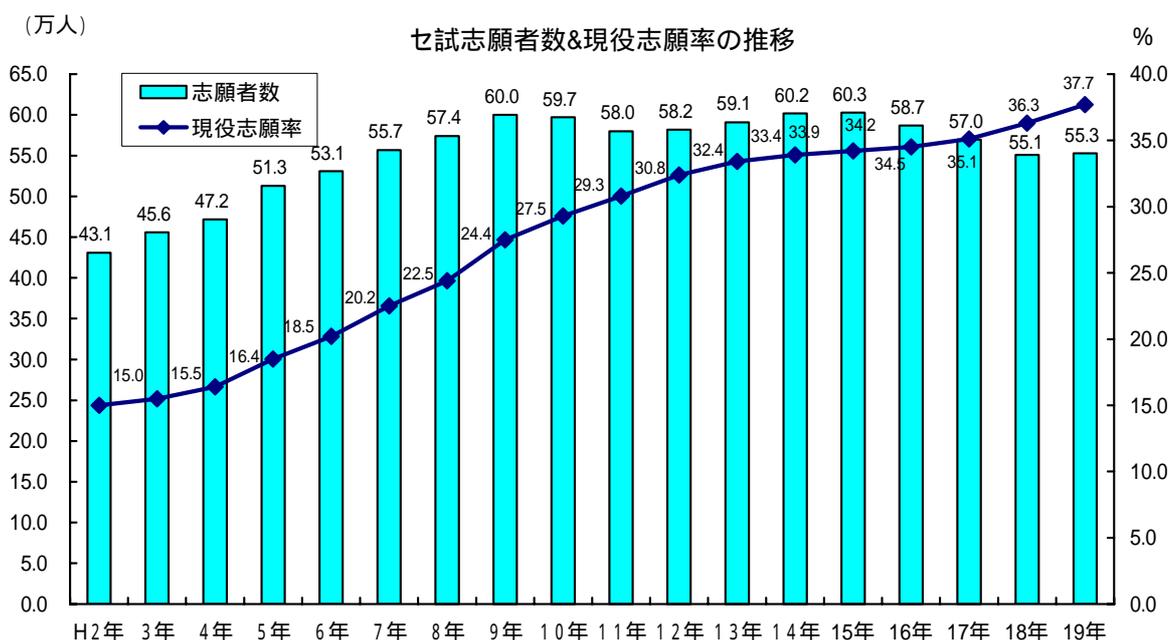
一方、島根(同5.6%減)、宮崎(同5.5%減)、山口(同4.6%減)、香川(同4.5%減)等、19都県が減少。特に、東京(同0.4%減)と千葉(同0.5%減)といった首都圏での減少が目を引く。

* 現役志願率：富山が50.3%で、4年連続の首位をキープ。これに広島(47.4%)、愛知(47.3%)、石川(44.6%)、東京(44.0%)等、40%台の高率が13都県続く。

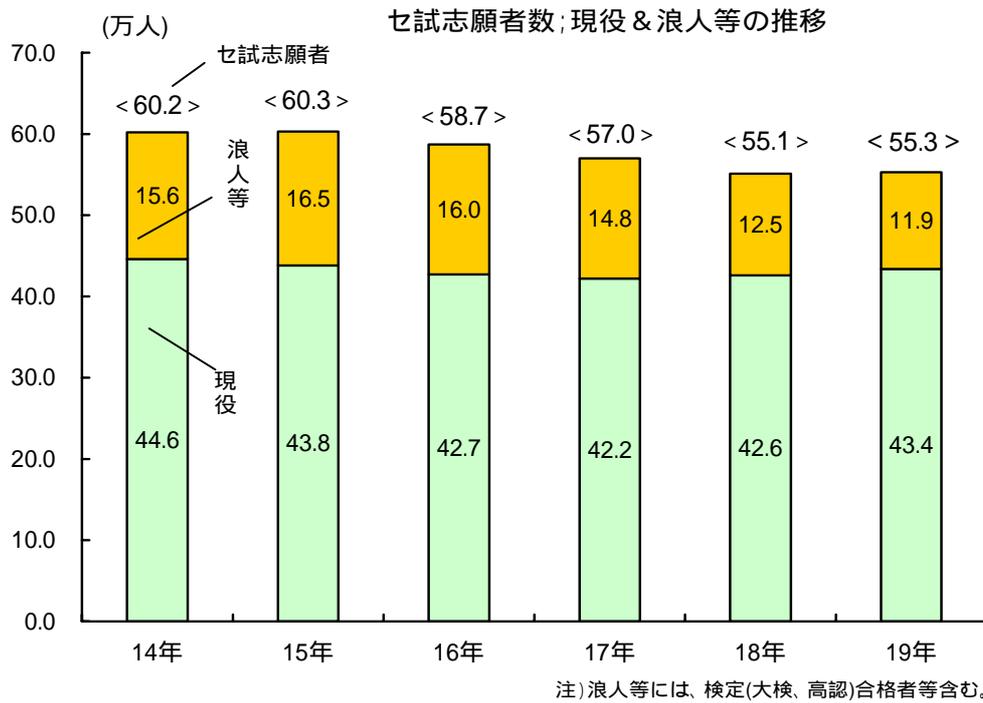
- ⑥ 試験成績の本人開示：14年より実施されている試験成績の本人開示(事後開示)については、開示希望者数が9,077人(2.4%)増え、39万1,567人(志願者の70.8%)に達している。

- ⑦ 英語リスニングテストに対する特別措置：身体障害者等に対する受験特別措置は、英語リスニングテストについても行われる。イヤホン不適合者は1,844人(前年762人)である。また、聴覚障害などで191人(前年152人)がリスニングテスト免除となる。

(図1)



(図 2)



(大学・学部 / 短大)

(図 3)

